

大学の世界展開力強化事業
(平成25年度選定)
平成29年度フォローアップ結果について

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会
平成29年8月4日(金)
独立行政法人 日本学術振興会

■ フォローアップの目的

「大学の世界展開力強化事業」の適正な事業管理を行うとともに、各大学における円滑な事業実施の支援、事業成果の還元のため、毎年度各大学の取組の進捗状況を確認するフォローアップを行う。

【参考：大学の世界展開力強化事業（平成25年度採択）公募要領（抜粋）】

6. その他

(2) 事業の評価等

毎年度ごとにフォローアップ活動（後述の「中間評価」実施年度は除く。）、支援開始から3年目に中間評価、支援終了後（支援開始から6年目の平成30年度）に事後評価を実施し、フォローアップ活動及び中間評価の結果は、補助金の配分に勘案されるとともに、事業目的、目標の達成が困難又は不可能と判断された場合、事業の中止も含めた計画の見直しを行うことがあります。

また、評価等については、委員会で定める評価方法、基準等に基づいて行われます。

3

■ スケジュール

- ・ 平成29年4月17日
フォローアップ実施について文部科学省から各選定大学に通知
- ・ 平成29年5月24日～5月26日
各選定大学からフォローアップ調査票の提出
- ・ 平成29年8月4日
大学の世界展開力強化事業プログラム委員会にフォローアップ結果の報告
- ・ 平成29年9月
フォローアップ結果の公表

■ フォローアップの総括

平成25年度に選定された7件の事業について、選定時の構想の各観点における進捗状況、特記すべき事項や構想時に設定した達成目標に対する平成28年度実績（受入・派遣学生数、英語コース及び科目数）等のフォローアップを行った。

各事業の取組、課題等や学生交流の進捗状況を見ると、それぞれの事業の目的や特色等を反映した取組が行われている。特に、プログラムの質の保証のため連携大学と協働した評価の実施や、本プログラムを契機として大学院への進学増加、教員間の共同研究に発展した例が報告されている。一方で、受入学生に対する相手国からの奨学金等の課題や問題点について、各選定大学は引き続きその対応や解決に努めている。

事業全体の交流学生数の実績を見ると、全体で派遣人数が目標を若干下回っているが、派遣人数については堅調に推移している。受入人数も順調に推移しており、今後も交流内容の発展が見込まれる。

本プログラムの趣旨に則り、より一層各事業がさらに充実し、成果を挙げられることを期待する。

5

1. 取組の進捗状況

大学の世界展開力強化事業（平成25年度選定）平成28年度フォローアップ調査票（以下「調査票」という。）による各選定大学からの回答に基づき、下記①～④の各観点における「優れた取組」や「課題等」について、抽出・整理を行った。

- ① 全般的事項
- ② 質保証を伴った付加価値の高い魅力的な教育プログラムの提供
- ③ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備
- ④ 構想の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

① 全般的事項

（○北海道大学、東京大学、酪農学園大学）

学生間の交流にとどまらず、大学院への進学増加や教員同士の共同研究などの交流にまで発展しており、今後も、学生のグローバルな視点の涵養とアジアにおける獣医学教育のボトムアップとなりうるプログラムの提供、そして活発な国際交流を継続・発展できると期待している。

（筑波大学）

ASEAN地域に短期留学する学生はASEANのパートナー大学での科目履修だけではなく、留学前、後にASEANからの受入学生との協働学修、チューター担当によりコミュニケーション能力と異文化理解を向上させた。

（○東京農工大学、茨城大学、首都大学東京）

AIMSプログラムで受け入れた学生が農工大、及び茨大の修士課程に進学（進学予定）するなど、ダブルディグリーコースの設置とあわせて、学部課程から大学院課程までのトータルな人材養成を行う仕組みが構築されつつある。

（早稲田大学）

平成28年度学生交流については派遣・受入ともに事業構想調書上の目標数値に対しそれぞれ108%、120%の実績とした。平成27年度以前の各種事例から蓄積したノウハウを効果的に活用し、派遣・受入を交えた全参加者対象の交流機会をより多くに設けることにより、学内外におけるプログラム認知度を更に高めることができています。

（立命館大学）

派遣学生は勉学・生活・価値観など様々な面において強い刺激を得ることができ、さらなる学習や長期留学、大学院進学へのモチベーションを得たり、不自由さやトラブルをも乗り越えるタフさも身につけることができた。

7

② 質保証を伴った付加価値の高い魅力的な教育プログラムの提供

（○北海道大学、酪農学園大学、東京大学）

自学では習得できない科目として、日本人学生からは野生動物や産業動物臨床の充実があげられており、タイ人学生からは先進的な臨床技術の習得や基礎研究に触れる機会があげられている。なお、本プログラムは、いずれの大学での実習においても小グループでの臨床実習を中心に構成されているため、各大学とも全ての受入学生が同一のコアとなる臨床経験およびラボワークを経験することが出来る体制を確保すべく、指導体制の改善を実施している。

（○東京農工大学、茨城大学、首都大学東京）

乗入科目（各大学の受入学生が相互に受講できる他大学の科目）については11科目を設定し、土日の集中講義形式とするなど実効性を確保する工夫をした。29年度は、各大学が開講する専門科目をさらに拡充すべく検討を行っている。

（広島大学）

グローバル・コンピテンシーの育成については、獲得すべきグローバル・コンピテンシーを設定したうえ、留学前、留学中、留学後の成長を評価するための評価シート及びディスクリプターを用意し、学生の自己評価に本学及び協定大学の教員がコメントを入れることにより実施すると共に、その実効性を高める特徴的な取組として、必須の共通科目「国際課題研究」およびその一環で学生が全員参加してグループ討論する「AIMS-HU学生セミナー」を実施した。さらに、平成28年度からは、より評価に客観性をもたせるための方策として「Beliefs, Events, and Values Inventory (BEVI)」のテストを導入した。

（早稲田大学）

各自の専門分野を通じて修了成果を発表する学生会議が派遣・受入の枠を越えた学生同士の連帯感育成に大きく影響していることは、本プログラムの最も重要な付加価値のひとつと言える。

（立命館大学）

評価シート（EXCHANGE PROGRAM EVALUATION REPORT）を導入し、受入および派遣における単位互換、教育の質、教員のサポート、現地コーディネータの役割等について、双方が評価し、プログラムの質の向上を目指している。さらに本評価シートは、本事業終了後、現地コーディネータ等の本学からの支援なしでも本プログラムを継続実施するために必要な対応を考えるための基礎情報としても活用していく。

4

8

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

（筑波大学）

受入が決まった学生に対しては、日本語・日本事情遠隔地教育システムを用いた渡航前日本語教育を実施し、日本での学生生活に備えるよう指導したほか、400以上提供される科目から自分の専攻分野、履修を希望する分野、さらに帰国後の単位互換に合わせてあらかじめ科目を選択させ、スムーズな学修開始に備えさせた。

（広島大学）

日本語学習歴のない外国人学生向けに、サバイバル日本語の習得を目的とした日本語クラスを設置した。講師は日本語教育を専攻する本学の大学院生が務め、講師自身のキャリア開発にも資する形となった。

（上智大学）

受入学生を対象に派遣学生と合同でフォローアップ研修を行い、留学生活で得たものを発表させ、成果を定着化させるとともに、プログラムの改善点等を議論した。

（早稲田大学）

通常科目の履修に加え、派遣・受入学生が共同で学ぶ共同ゼミ（2単位）の履修を必修とし、交流イベントの開催頻度や参加者層を拡大させることにより、受入・派遣学生の交流を活性化した。

（立命館大学）

タイにおける国王崩御やインドネシアにおけるテロ事件に際し、現地コーディネータからの現地情報や現地での指示が、学生の安全管理においても重要な役割を担った。また、現地コーディネータを通じて、あらかじめ受入学生の履修状況や単位互換情報を得ることで、本学での履修指導を適切に行うことができた。

9

④構想の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

（○東京農工大学、茨城大学、首都大学東京）

新学期オリエンテーションでのバディ自身による活動内容の説明、ランチ交流会等の活動を通じて、日本人学生への広報も実施しており、約200人の学生が活動に参加した。前年度派遣学生やバディを核として、FacebookなどSNSを活用した学生間のネットワークも構築されている。

（広島大学）

専用フェイスブックでは、引き続き留学情報やイベントをリアルタイムに情報提供し、プログラム運営側と受入・派遣学生との密なコミュニケーションを確立した。

（上智大学）

本学は学生の多様化に対応するための施策の一環として、ムスリムの学生向けに、ハラルフードやベジタリアンフードの提供、祈りを捧げる部屋をキャンパス内に設けるなどの取り組みを行っており、本プログラムで受け入れたインドネシア・マレーシアの留学生からも良好なフィードバックを得た。その声や様子を収録した情宣ビデオは今後「プログラム開発協議会」等で両国を訪問した際に上映する等して、本学の強みの一つとして大いに活用していく。

（立命館大学）

本学のトップページにおいて3回シリーズで本プログラムを取り上げ、教員と参加学生の視点からプログラムの魅力を発信。学外からのアクセスも高まり、学内外でのプログラムの認知度が上がった。

2. 特記すべき成果

(○北海道大学, 酪農学園大学, 東京大学)

特筆すべきは、当該プログラムにより日本の大学におけるタイからの大学院生の進学数の増加である。他国に比して、タイからの博士課程入学者数は増加しており、当該プログラムの成果の一つと考えられる。また、学生派遣の引率および国際運営委員会への出席や、両国教員の交流機会が増加したことにより、教員間での共同研究への発展など、その波及効果が見える形で定着しつつある。

(広島大学)

受入・派遣学生には、日本企業や公共機関への訪問をアレンジし、将来のキャリアについて考える機会を提供した。大学院に進学する学生が出てきたほか、日本企業に就職した受入学生がおり、就職した派遣学生においては13名中9名が国内外に拠点・取引先等を持つグローバル企業に就職している。

(早稲田大学)

平成29年度秋学期派遣となる第4期生の募集を行ったところ、事業開始当初から比較し応募者のGPA平均値における上昇を確認しており、(26年度:2.92、27年度:2.93、28年度:3.25、29年度:3.31)参加学生の質の向上を明示していると言える。事業全体としては、文部科学省並びに外部評価委員より受けた指摘を参考とし、特に現地語能力測定試験を開発したことは(詳細(3))本事業終盤を見据え客観的評価体制を確立する上で大きな成果となった。また、本プログラムへの指定寄付金を活用した「国際教養学部AIMS参加学生修学支援奨学資金」設置を決定しており、補助金期間終了後も学生交流事業を持続可能なものとするための対策も計画的に実施できている。

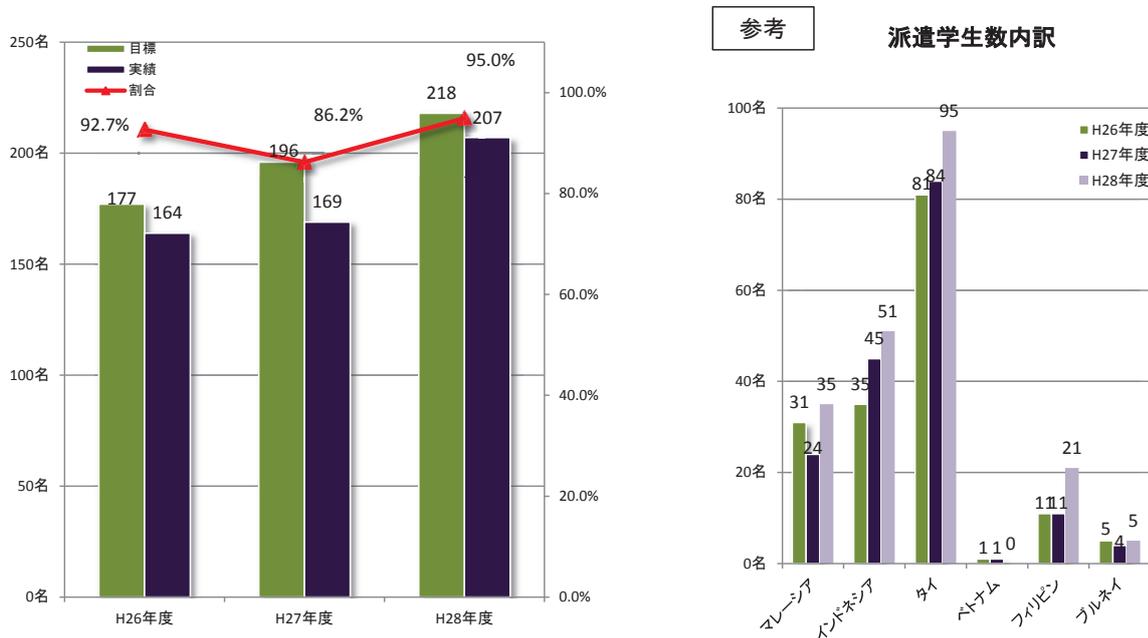
11

3. 交流学生数の実績(1)

(1-1) 交流プログラムで海外に留学した日本人学生数(派遣学生数)について【全体の状況】

※平成25年度は日程の関係上全ての事業において達成目標と実績は0名。

各年度の実績は目標をやや下回っているが、派遣学生数は堅調に増加している。

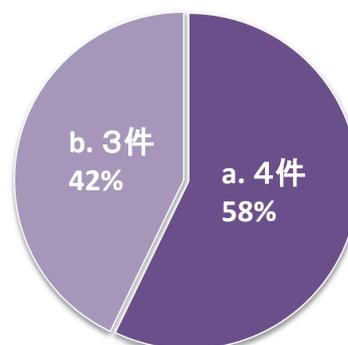


(1-2) 交流プログラムで海外に留学した日本人学生数(派遣学生数)について

【各事業の状況(平成28年度)】

達成目標に対する実績の割合が

- a. 100%以上200%未満だった事業
- b. 100%未満だった事業



※事業ごとの派遣学生数の詳細は別表1参照

13

(1-3) 交流プログラム(派遣)の進捗状況について (各大学のコメントより抜粋)

【平成28年度の達成目標に対し実績が上回っている事業】

(筑波大学)

学内の学生に対してASEANへの海外留学プロモーションを目的として、プログラムガイダンス、帰国学生による報告会、受入学生との文化交流活動の実施、TAG-TSSP(休業中の短期研修プログラム)を行い、派遣学生数を増加させることができた。留学先国、学問分野について学生の希望にそくした内容のプログラムを提供するため、タイ・ベトナム・ブルネイのパートナー大学を追加した。

(上智大学)

平成28年度は本学からの派遣時期を春学期にも拡大した。これは、春学期派遣は中間評価で指摘を受けた目標の達成に向けた改善策として実施したもので、春学期に4名、秋学期に29名を派遣し、さらに2月に4名を派遣し、合計37名となり、平成28年度の目標人数を達成した。春学期派遣の開始により、学生の留学可能時期が増えたため、プログラムのモビリティが向上するとともに派遣人数の底上げにもつながった。

【平成28年度の達成目標に対し実績が下回っている事業】

(立命館大学)

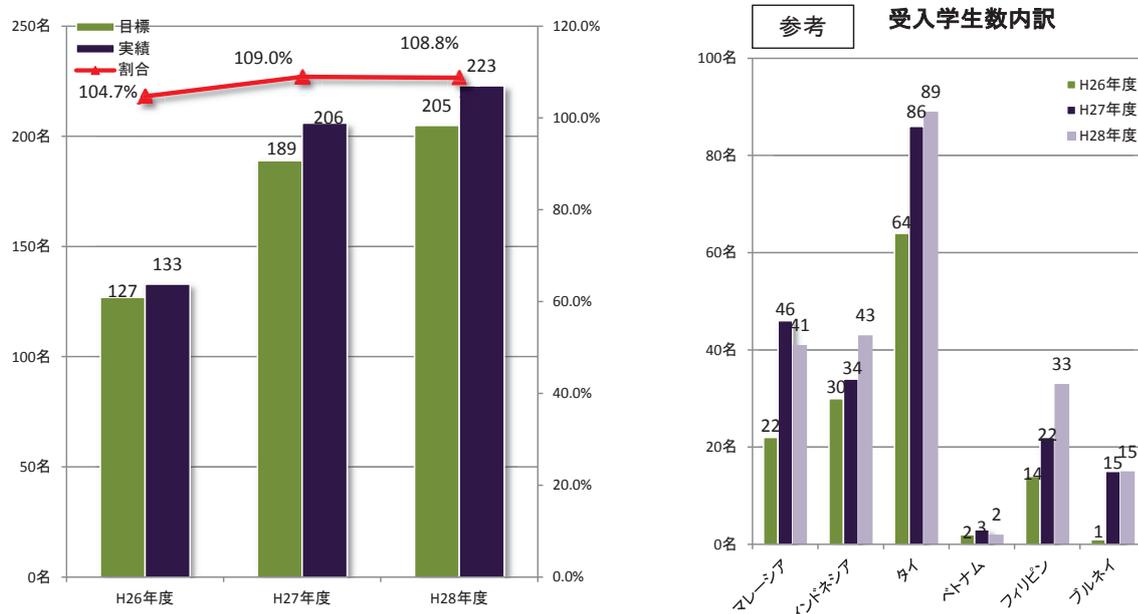
平成28年度派遣者数については、新たな派遣先としてマヒドン大学を加えて、第3次募集まで行い40人の出願を得たが、特定の派遣先への出願の集中などもあり、最終的な派遣者数としては目標に達しなかった。次年度に向け、本プログラムの特徴である留学前学習、留学、留学後学習の流れによる「学生の成長」をより具体的に発信することで、応募者の拡大と派遣目標の達成を目指す。

3. 交流学生数の実績（2）

(2-1) 交流プログラムで受け入れた外国人学生数(受入学生数)について【全体の状況】

※平成25年度は日程の関係上全ての事業において達成目標と実績は0名。

平成26年度以降の実績は目標を上回り、順調に進捗している。

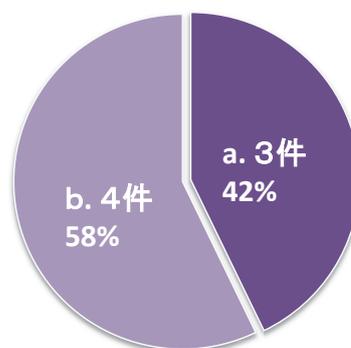


15

(2-2) 交流プログラムで受け入れた外国人学生数(受入学生数)について【各事業の状況(平成28年度)】

達成目標に対する実績の割合が

- a. 100%以上200%未満だった事業
- b. 100%未満だった事業



※事業ごとの受入学生数の詳細は別表2参照

(2-3) 交流プログラム(受入)の進捗状況について (各大学のコメントより抜粋)

【平成28年度の達成目標に対し実績が上回っている事業】

(○東京農工大学、茨城大学、首都大学東京)

インドネシア、マレーシア、タイ、フィリピンの4か国のAIMS大学から54人の学生を受け入れた。目標値(41人)を達成するとともに、前年度(44人)を上回る受入を達成し、着実にプログラムが根付いている。9月は三大学コンソーシアムの共通科目、10月以降は各大学(各コース)における専門科目を受講した。受入プログラムが終了する12月には、茨大においてラップアップ・プログラムを実施し、三大学の受入学生全員が一堂に会して成果の振り返りを行った。

(早稲田大学)

受入学生の生活面ではムスリム学生への情報提供に特に注力し、受入学生が参加するイベントではハラール食を用意するなどして宗教の違いによる生活面のストレス軽減に努めた。本プログラムでは春学期を正式な受入学期としているが、秋学期受入生についてもオリエンテーション、ホームステイプログラム、フィールドトリップ等、共同ゼミの開講を除き春学期と同様のサポートを提供した。

【平成28年度の達成目標に対し実績が下回っている事業】

(広島大学)

本プログラムにより本学へ留学したい学生は多くいるが、派遣元大学からの奨学金等の支援が無いため経済的理由で留学を断念するケースが多いことから、工学分野では独自に部局の予算を確保し、受入学生への航空運賃(片道)を支援する取組を行い、目標値に近い数の学生を受け入れることができた。

17

4. 英語コース及び科目数の実績

【全体の状況】

①AIMSプログラムにおける英語によるコース数

○平成29年度までに設置することとしているコース数(27コース)に対する進捗割合は74. 1%。

②英語による授業の科目数

○全授業科目数に対する英語による授業科目数の割合は、目標を達成。

	割合	全授業科目数	英語授業科目数
目標	5. 2%	71, 400科目	3, 729科目
実績	8. 4%	48, 801科目	4, 075科目
差	+3. 2%		

○AIMSプログラムにおける英語による授業科目数[単位数]の設置実績は、目標を達成。

	英語授業科目数	[単位数]
目標	1, 095科目	1, 733単位
実績	1, 535科目	2, 987単位
差	+440科目	+1, 254単位

※事業ごとの英語コース及び科目数の詳細は別表3参照

別表1:プログラムごとの派遣学生数(平成25年度選定)

(単位:名)

	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(派遣学生数内訳)						
		目標(計)	実績(計)		マレーシア	インドネシア	タイ	ベトナム	フィリピン	ブルネイ	
○北海道大学、 東京大学、 酪農学園大学	日本とタイの獣医学教育連携:アジアの健全な発展のために	H25	0	0	-	0	0	0	0	0	0
		H26	25	26	104.0	0	0	26	0	0	0
		H27	25	20	80.0	0	0	20	0	0	0
		H28	25	24	96.0	0	0	24	0	0	0
		計	75	70	93.3	0	0	70	0	0	0
筑波大学	アセアン横断型グローバル課題挑戦的教育プログラム	H25	0	0	-	0	0	0	0	0	0
		H26	25	24	96.0	11	2	7	1	3	0
		H27	28	28	100.0	8	7	6	1	6	0
		H28	29	34	117.2	13	8	9	0	2	2
		計	82	86	104.9	32	17	22	2	11	2
○東京農工大学、 茨城大学、 首都大学東京	ASEAN発、環境に配慮した食料供給・技術革新・地域づくりを担う次世代人材養成	H25	0	0	-	0	0	0	0	0	0
		H26	27	29	107.4	12	14	3	0	0	0
		H27	30	32	106.7	11	12	9	0	0	0
		H28	41	41	100.0	13	10	14	0	4	0
		計	98	102	104.1	36	36	26	0	4	0
広島大学	アジアの共同経済発展と信頼関係の確立による平和構築に貢献する中核人材教育プログラム	H25	0	0	-	0	0	0	0	0	0
		H26	25	25	100.0	0	2	23	0	0	0
		H27	25	22	88.0	0	1	21	0	0	0
		H28	25	21	84.0	0	1	20	0	0	0
		計	75	68	90.7	0	4	64	0	0	0
上智大学	多様性の調和を目指す学融合型の人間開発教育プログラム	H25	0	0	-	0	0	0	0	0	0
		H26	25	15	60.0	0	2	8	0	5	0
		H27	32	17	53.1	1	5	8	0	3	0
		H28	37	37	100.0	2	9	13	0	13	0
		計	94	69	73.4	3	16	29	0	21	0
早稲田大学	AIMS7 多言語・多文化共生プログラム	H25	0	0	-	0	0	0	0	0	0
		H26	25	25	100.0	8	3	6	0	3	5
		H27	25	25	100.0	4	5	10	0	2	4
		H28	25	27	108.0	7	7	8	0	2	3
		計	75	77	102.7	19	15	24	0	7	12
立命館大学	国際PBLによるイノベーション育成プログラム	H25	0	0	-	0	0	0	0	0	0
		H26	25	20	80.0	0	12	8	0	0	0
		H27	31	25	80.6	0	15	10	0	0	0
		H28	36	23	63.9	0	16	7	0	0	0
		計	92	68	73.9	0	43	25	0	0	0
合計		591	540	91.4	90	131	260	2	43	14	

別表2:プログラムごとの受入学生数(平成25年度選定)

(単位:名)

	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(受入学生数内訳)						
		目標(計)	実績(計)		マレーシア	インドネシア	タイ	ベトナム	フィリピン	ブルネイ	
○北海道大学、東京大学、酪農学園大学	日本とタイの獣医学教育連携:アジアの健全な発展のために	H25	0	0	-	0	0	0	0	0	0
		H26	25	25	100.0	0	0	25	0	0	0
		H27	25	25	100.0	0	0	25	0	0	0
		H28	25	23	92.0	0	0	23	0	0	0
		計	75	73	97.3	0	0	73	0	0	0
筑波大学	アセアン横断型グローバル課題挑戦的教育プログラム	H25	0	0	-	0	0	0	0	0	0
		H26	25	28	112.0	6	3	7	2	10	0
		H27	28	40	142.9	21	5	4	3	7	0
		H28	28	47	167.9	14	6	9	2	11	5
		計	81	115	142.0	41	14	20	7	28	5
○東京農工大学、茨城大学、首都大学東京	ASEAN発、環境に配慮した食料供給・技術革新・地域づくりを担う次世代人材養成	H25	0	0	-	0	0	0	0	0	0
		H26	27	35	129.6	12	16	7	0	0	0
		H27	30	44	146.7	20	11	9	0	0	4
		H28	41	54	131.7	20	12	12	0	10	0
		計	98	133	135.7	52	39	28	0	10	4
広島大学	アジアの共同経済発展と信頼関係の確立による平和構築に貢献する中核人材教育プログラム	H25	0	0	-	0	0	0	0	0	0
		H26	25	22	88.0	0	3	19	0	0	0
		H27	28	26	92.9	0	4	22	0	0	0
		H28	28	25	89.3	0	4	21	0	0	0
		計	81	73	90.1	0	11	62	0	0	0
上智大学	多様性の調和を目指す学融合型の人間開発教育プログラム	H25	0	0	-	0	0	0	0	0	0
		H26	25	8	32.0	0	3	1	0	4	0
		H27	27	26	96.3	1	4	11	0	10	0
		H28	27	21	77.8	2	1	8	0	10	0
		計	79	55	69.6	3	8	20	0	24	0
早稲田大学	AIMS7 多言語・多文化共生プログラム	H25	0	0	-	0	0	0	0	0	0
		H26	0	10	-	4	5	0	0	0	1
		H27	25	32	128.0	4	6	6	0	5	11
		H28	25	30	120.0	5	7	6	0	2	10
		計	50	72	144.0	13	18	12	0	7	22
立命館大学	国際PBLによるイノベータ育成プログラム	H25	0	0	-	0	0	0	0	0	0
		H26	0	5	-	0	0	5	0	0	0
		H27	26	13	50.0	0	4	9	0	0	0
		H28	31	23	74.2	0	13	10	0	0	0
		計	57	41	71.9	0	17	24	0	0	0
合計		521	562	107.9	109	107	239	7	69	31	

別表3:プログラムごとの英語コース及び科目数(平成25年度選定)

(※)コースとは、卒業要件単位に算入できる一定の科目群を体系的にまとめたものをいう。

	H25.5.1現在の英語による授業の科目数	取組年度	AIMSプログラムにおける英語によるコース(※)数			全授業科目数(A)		うち全体の英語による授業の科目数(B)		うちAIMSプログラムにおける授業科目/単位数(C)						割合(B/A)		割合(C/B)		全教員数(D)	うち英語による授業科目を担当している教員数(E)	うちAIMSプログラムにおける授業科目を担当している教員数(F) [単位数]	割合(E/D)	割合(F/E)	
			目標	実績	差	目標	実績	目標	実績	目標		実績		差		目標	実績	目標	実績						
										科目	単位	科目	単位	科目	単位										
																									科目
○北海道大学、 東京大学、 酪農学園大学	240	H25	0	0	0	16,258	11,804	892	327	0	0	0	0	0	0	0	5.5%	2.8%	0.0%	0.0%	6,503	495	85	7.6%	17.2%
		H26	9	3	▲6	16,258	11,906	924	445	32	51	17	39	▲15	▲12	5.7%	3.7%	3.5%	3.8%						
		H27	9	3	▲6	16,258	11,264	924	522	32	51	16	41	▲16	▲10	5.7%	4.6%	3.5%	3.1%						
		H28	9	3	▲6	16,258	10,493	924	691	32	51	24	53	▲8	2	5.7%	6.6%	3.5%	3.5%						
筑波大学	719	H25	7	7	0	7,759	7,759	719	719	719	935.5	719	935.5	0	0	9.3%	9.3%	100.0%	100.0%	1,910	191	191	10.0%	100.0%	
		H26	7	7	0	7,759	7,759	730	730	730	946.5	730	946.5	0	0	9.4%	9.4%	100.0%	100.0%						
		H27	7	7	0	7,759	7,759	735	730	735	951.5	730	946.5	▲5	▲5	9.5%	9.4%	100.0%	100.0%						
		H28	7	7	0	7,759	7,759	740	730	740	956.5	730	946.5	▲10	▲10	9.5%	9.4%	100.0%	100.0%						
○東京農工大学、 茨城大学、 首都大学東京	86	H25	4	4	0	6,407	7,523	86	90	0	0	0	0	0	0	1.3%	1.2%	0.0%	0.0%	1,603	153	103	9.5%	67.3%	
		H26	4	4	0	6,407	7,184	124	149	43	77	70	142	27	65	1.9%	2.1%	34.7%	47.0%						
		H27	4	4	0	6,407	7,310	170	218	52	94	92	174	40	80	2.7%	3.0%	30.6%	42.2%						
		H28	4	4	0	6,407	6,853	191	212	62	112	90	151	28	39	3.0%	3.1%	32.5%	42.5%						
広島大学	92	H25	0	0	0	6,502	5,817	92	79	0	0	0	0	0	0	1.4%	1.4%	0.0%	0.0%	2,244	569	78	25.4%	13.7%	
		H26	3	3	0	6,523	5,790	113	215	21	41	32	72	11	31	1.7%	3.7%	18.6%	14.9%						
		H27	4	4	0	6,530	5,590	120	236	28	55	40	95	12	40	1.8%	4.2%	23.3%	16.9%						
		H28	4	4	0	6,530	5,532	120	565	28	55	40	96	12	41	1.8%	10.2%	23.3%	7.1%						
上智大学	300	H25	1	1	0	3,069	3,069	300	300	83	252	83	252	0	0	9.8%	9.8%	27.7%	27.7%	1,458	284	128	19.5%	45.1%	
		H26	1	1	0	3,080	3,046	363	386	91	274	109	312	18	38	11.8%	12.7%	25.1%	28.2%						
		H27	1	1	0	3,081	2,844	384	437	96	284	98	282	2	▲2	12.5%	15.4%	25.0%	22.4%						
		H28	1	1	0	3,082	2,828	394	520	98	288	174	504	76	216	12.8%	18.4%	24.9%	33.5%						
早稲田大学	1,126	H25	1	1	0	27,319	13,897	1,126	861	60	120	32	70	▲28	▲50	4.1%	6.2%	5.3%	3.7%	3,836	670	173	17.5%	25.8%	
		H26	1	1	0	27,319	13,434	1,126	922	70	140	105	334	35	194	4.1%	6.9%	6.2%	11.4%						
		H27	1	1	0	27,319	13,214	1,126	972	80	160	357	996	277	836	4.1%	7.4%	7.1%	36.7%						
		H28	1	1	0	27,319	11,777	1,126	1,086	85	170	379	1,040	294	870	4.1%	9.2%	7.5%	34.9%						
立命館大学	127	H25	0	0	0	3,925	3,925	204	204	9	18	0	0	▲9	▲18	5.2%	5.2%	4.4%	0.0%	2,243	185	73	8.2%	39.5%	
		H26	0	0	0	4,025	3,833	214	367	28	56	8	14	▲20	▲42	5.3%	9.6%	13.1%	2.2%						
		H27	1	0	▲1	4,035	3,518	224	232	42	84	85	164	43	80	5.6%	6.6%	18.8%	36.6%						
		H28	1	0	▲1	4,045	3,559	234	271	50	100	98	196	48	96	5.8%	7.6%	21.4%	36.2%						
計	2,690	H25	13	13	0	71,239	53,794	3,419	2,580	871	1,326	834	1,258	▲37	▲68	4.8%	4.8%	25.5%	32.3%	19,797	2,547	831	12.9%	32.6%	
		H26	25	19	▲6	71,371	52,952	3,594	3,214	1,015	1,586	1,071	1,860	56	274	5.0%	6.1%	28.2%	33.3%						
		H27	27	20	▲7	71,389	51,499	3,683	3,347	1,065	1,680	1,418	2,699	353	1,019	5.2%	6.5%	28.9%	42.4%						
		H28	27	20	▲7	71,400	48,801	3,729	4,075	1,095	1,733	1,535	2,987	440	1,254	5.2%	8.4%	29.4%	37.7%						